

リモート コントローラ

RMC-11

このたびは、リモート コントローラ RMC-11 をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

正しくご使用いただくために、かならずこの取扱説明書をお読みになり末永くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

お読みになったあとは、後日お役に立つこともありますので、かならず保管してください。

概要

本機は、マトリックス スイッチャの出力と入力の割り当てをリモート操作をするためのものです。

マトリックス スイッチャの機種により、システム例・操作方法の説明が
区別されています。

- MSW-2808/2412.....4 ページ～
- MSW-3216/4816/6416.....10 ページ～
- MSW-3232/6432.....16 ページ～

特長

- スレーブ(号機)番号,出力(モニタ)番号,入力(カメラ)番号をテンキーで入力するシンプルな操作です。
- RS-232C によりマトリックス スイッチャと接続し、信号を送信して制御できます。
- RS-485 によりマトリックス スイッチャと接続し、信号を送信して制御できます。
- RS-485 使用時は、最長で 1.2km のケーブルを介して制御をおこなえます。
- RS-485 使用時は、最大 32 台までのマトリックス スイッチャを制御できます。
- RS-485 使用時は、最大 32 台のリモコンを接続して制御できます。
- ディップ スイッチによりスレーブ(号機)番号や出力(モニタ)番号を固定して、操作を省略することができます。

目次

安全上のご注意	1
---------------	---

各部の名称とはたらき	3
------------------	---

■ 上面図	3
■ 背面図	3

MSW-2808/2412 用	4
-----------------------	---

システム例	4
-------------	---

■ RS-232C 使用	4
■ RS-485 使用 (MSW を複数接続する場合)	5
1. システム例	5
2. 接続例	5
■ RS-485 使用 (RMC を複数接続する場合)	6
1. システム例	6
2. 接続例	6

操作方法	7
------------	---

■ 電源 入/切	7
● 工場出荷時設定に戻すには	7
■ 操作方法	7
● 6 キー操作 (基本操作)	7
● 4 キー操作 (スレーブ固定)	8
● 2 キー操作 (スレーブ固定, 出力固定)	9

MSW-3216/4816/6416 用	10
----------------------------	----

システム例	10
-------------	----

■ RS-232C 使用	10
■ RS-485 使用 (MSW を複数接続する場合)	11
1. システム例	11
2. 接続例	11
■ RS-485 使用 (RMC を複数接続する場合)	12
1. システム例	12
2. 接続例	12

操作方法	13
------------	----

■ 電源 入/切	13
● 工場出荷時設定に戻すには	13
■ 操作方法	13
● 6 キー操作 (基本操作)	13
● 4 キー操作 (スレーブ固定)	14
● 2 キー操作 (スレーブ固定, 出力固定)	15

MSW-3232/6432 用	16
-----------------------	----

システム例	16
-------------	----

■ RS-232C 使用	16
■ RS-485 使用 (MSW を複数接続する場合)	17
1. システム例	17
2. 接続例	17
■ RS-485 使用 (RMC を複数接続する場合)	18
1. システム例	18
2. 接続例	18

操作方法	19
------------	----

■ 電源 入/切	19
● 工場出荷時設定に戻すには	19
■ 操作方法	19
● 6 キー操作 (基本操作)	19
● 4 キー操作 (スレーブ固定)	20
● 2 キー操作 (スレーブ固定, 出力固定)	21

ディップ スイッチの設定 (共通)	22
-------------------------	----

■ 操作方法	22
■ 各スイッチの説明	22

LED の表示内容 (共通)	23
----------------------	----

製品仕様	24
------------	----

修理を依頼されるときは	24
-------------------	----

品質保証規定	24
--------------	----

おことわり	24
-------------	----

システム例および操作方は、ご使用になるマトリックス スイッチャによって取扱い説明が
区別されています。ご使用になる機種によって次に示すページをご参照ください。

- MSW-2808/2412 4 ページ～
- MSW-3216/4816/6416 10 ページ～
- MSW-3232/6432 16 ページ～

安全上のご注意 かならずお守りください

安全に正しくお使いいただくために、この「安全上のご注意」をよくお読みください。

■絵表示について

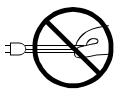
この取扱説明書では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

内容をよく理解してから本文をお読みください。

	警告 この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
	注意 この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

■絵表示の例

	△記号は注意(危険・警告を含む)を促す内容があることを告げるものです。 図の中に具体的な注意内容(左図の場合は感電注意)が描かれています。
	○記号は禁止の行為であることを告げるものです。 図の中や近傍に具体的な禁止内容(左図の場合は分解禁止)が描かれています。
	●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。 図の中に具体的な指示内容(左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け)が描かれています。

 警告	
●本機のケース・裏パネル等をはずさない！ 内部には高圧の部分があり、感電の原因となります。 ・改造などは絶対におこなわないでください。 ・内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。	 
●本機を濡らさない！ 火災・感電の原因となります。 ・雨天・降雪中・海岸・水辺での使用は特にご注意ください。 ・風呂・シャワー室などの水場では使用しないでください。 ・本機の上に水などの入った容器を置かないでください。 ・万一水などが中に入ったときには、すぐに電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご相談ください。	  
●本機の開口部から金属物や燃えやすいものなどの異物を差し込まない！ 万一異物が入ったときには、すぐに電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご相談ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。	 
●ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない！ 感電の原因となることがあります。	
●電源プラグやコンセントにほこりなどを付着させない！ ほこりによりショートや発熱が起こって火災の原因となります。湿度の高い部屋、結露しやすいところ、台所やほこりがたまりやすい場所のコンセントを使っている場合は、特に注意してください。	
●電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない！ コードが傷つき火災・感電の原因となることがあります。かならずプラグを持って抜いてください。	
●雷が鳴り出したら使わない！ 電源プラグや接続ケーブルには絶対に触れないでください。感電の原因となります。	
●アース線を接地する 感電を避けるためにかねらず接地をしてください。アース線は絶対にガス管に接続しないでください。 爆発や火災の原因となります。	
●電源電圧 100V±10%以外の電圧で使わない！ 火災・感電の原因となります。	

 注意	
●煙が出ている、変なおいや音がするなどの異常状態の場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグを抜く！ そのまま使用すると火災・感電の原因となります。煙が出なくなるのを確認して、販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。	 
●本機が故障した場合、落としたりケースが破損した場合は、電源スイッチを切り、電源プラグを抜く！ そのまま使用すると火災・感電の原因となります。販売店に修理をご依頼ください。	 
●移動させる場合は、かならず電源スイッチを切り、プラグを抜き、機器間の接続ケーブルをはずす！ コードが傷つき火災・感電の原因となることがあります。	 
●長期間使用しないときは、安全のためかならず電源プラグをコンセントから抜く！ 火災の原因となることがあります。	 
●本機の上に重いものを置かない！ バランスがくずれて倒れたり落下してけがの原因となることがあります。 また、重みによって故障の原因となることがあります。	
●コード類は正しく配線する！ ・電源コードを熱器具に近づけないでください。 ・電源コードを本機の下敷きにしないでください。 ・足などにケーブルを引っかけると機器の落下や転倒などにより、けがの原因となることがあります。	
●設置場所にご注意ください！ ・不安定な場所に置かないでください。 ・磁気を発生する機器の近くに置かないでください。 ・直射日光のあたるところや熱器具の近くに置かないでください。 ・冷凍倉庫や外気にさらされるなど、温度変化の激しいところには置かないでください。 ・振動や衝撃の加わるところには置かないでください。 ・腐食性ガスのあたるところには置かないでください。 ・調理台や加湿器のそばなど、油煙や湿気があたるところには置かないでください。	
●本機の通風孔をふさがない！ 通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。 壁から 10cm 以上離して設置してください。また、次のような使いかたはしないでください。 ・本機を仰向けや横倒し、逆さまにする。 ・風通しの悪い狭い所に押し込む。 ・じゅうたんや布団の上に置く。 ・テーブルクロスなどをかける。	

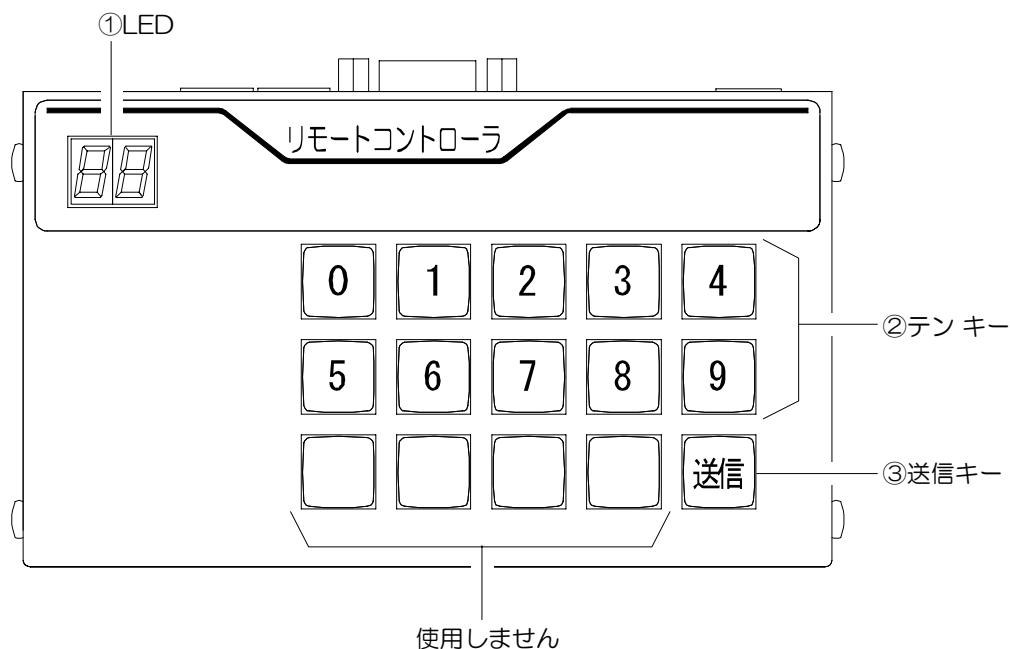
■定期点検とお手入れについて

※お手入れの際は安全のため、電源スイッチを切り、電源コードのプラグを抜いてからおこなってください。

 注意
●電源コードが傷んだ(芯線の露出・断線など)場合は交換を依頼する！ そのまま使用すると火災・感電の原因となります。販売店に交換をご依頼ください。
●内部の掃除について 内部の掃除については、お買い上げの販売店にご相談ください。 機器の内部にほこりがたまると長い間掃除をしないと、火災・故障の原因となることがあります。
●電源プラグの掃除をしてください 電源プラグを長時間差し込んだままにしておくと、差し込み部分にほこりがたまり、火災の原因となることがあります。 年に一度くらいは、プラグを抜いてほこりを取ってください。
●カバーは乾いた布で拭いてください 汚れがひどいときは、うすめの中性洗剤液を浸しよく絞った布で拭き取ってから、から拭きしてください。 このとき、液が内部に入らないように注意してください。 ベンジン、シンナー、アルコールなどの液体クリーナーやスプレー式クリーナーは使用しないでください。

各部の名称とはたらき

■ 上面図



①LED

入力キー番号等を表示します。
各種メッセージを表示します。

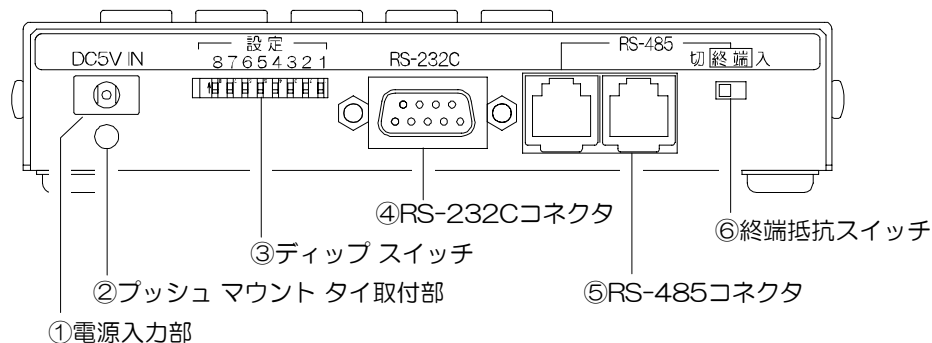
②テンキー

スレーブ(号機)番号,出力(モニタ)番号,入力(カメラ)番号などを入力します。

③送信キー

入力した番号を機器へ送信します。

■ 背面図



①電源入力部 (DC+5V)

付属の AC アダプタを接続します。

②プッシュ マウント タイ取付部

AC アダプタのコードをしっかりと固定します。

③ディップ スイッチ

各種のモード設定をします。

④RS-232C コネクタ

制御対象機器と接続して信号を送信します。
D-Sub9 ピン(オス)ストレートケーブル使用

⑤RS-485 コネクタ (ハーフ デュープレックス)

制御対象機器と接続して信号を送信します。(ループ スルー)
モジュラ ジャック (RJ-11) 6 極 4 芯

⑥終端抵抗スイッチ

RS-485 使用時の終端抵抗 ON/OFF スイッチです。1 つのジャックのみ使用する場合は ON にします。

システム例および操作方法は、ご使用になるマトリックス スイッチャによって取扱い説明が区別されています。ご使用になる機種によって次に示すページをご参照ください。

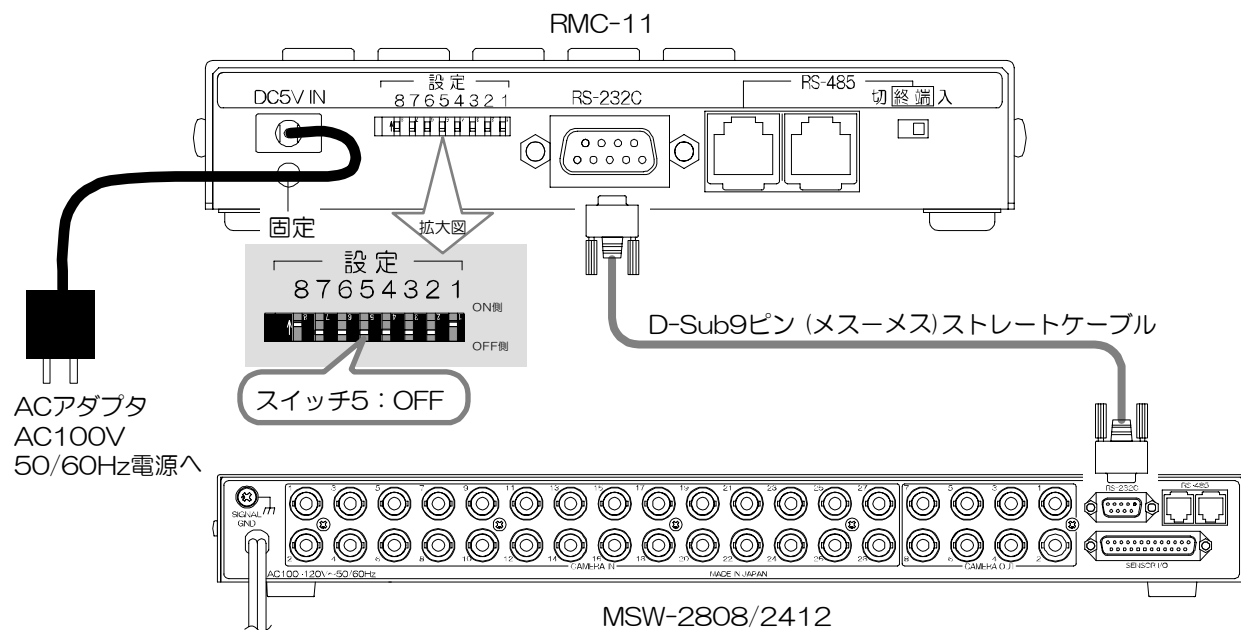
- MSW-2808/2412.....4 ページ～
- MSW-3216/4816/6416.....10 ページ～
- MSW-3232/6432.....16 ページ～

■ RS-232C 使用

接続例

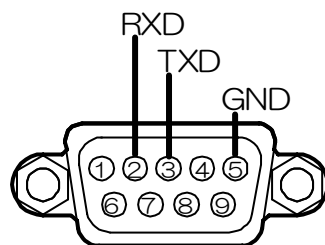
1 台のマトリックス スイッチャと 1 台のリモコンを接続して操作する場合です。

※ディップ スイッチ 5 を OFF 側にたおしてください。



RS-232C ピン アサイン(参考)

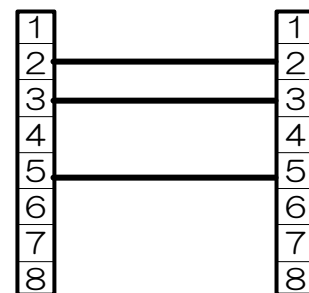
本機の RS-232C は三線式 (RXD, TXD, GND) で、フロー制御をしていません。



D-Sub9ピン(オス)

コントローラー側

機器側



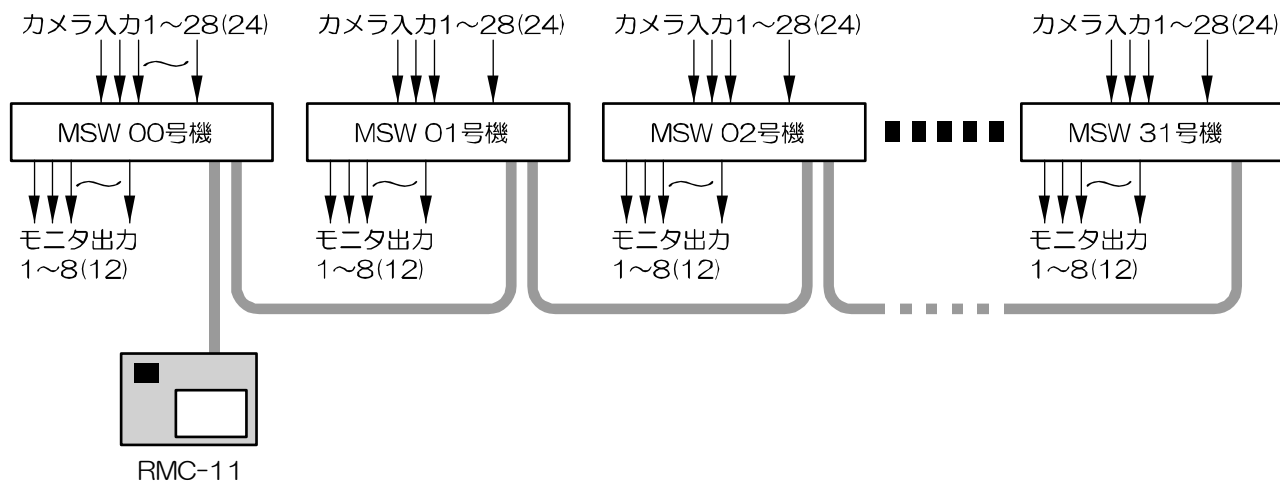
■ RS-485 使用 (MSW を複数接続する場合)

1. システム例

多数のカメラ入力とモニタ出力を 1 台のリモコンで操作する場合です。

※マトリックス スイッチャは RS-485 カスケード接続により最大 32 台まで接続・制御可能です。

※モジュラ ケーブルは最長 1.2km まで接続・制御可能です。

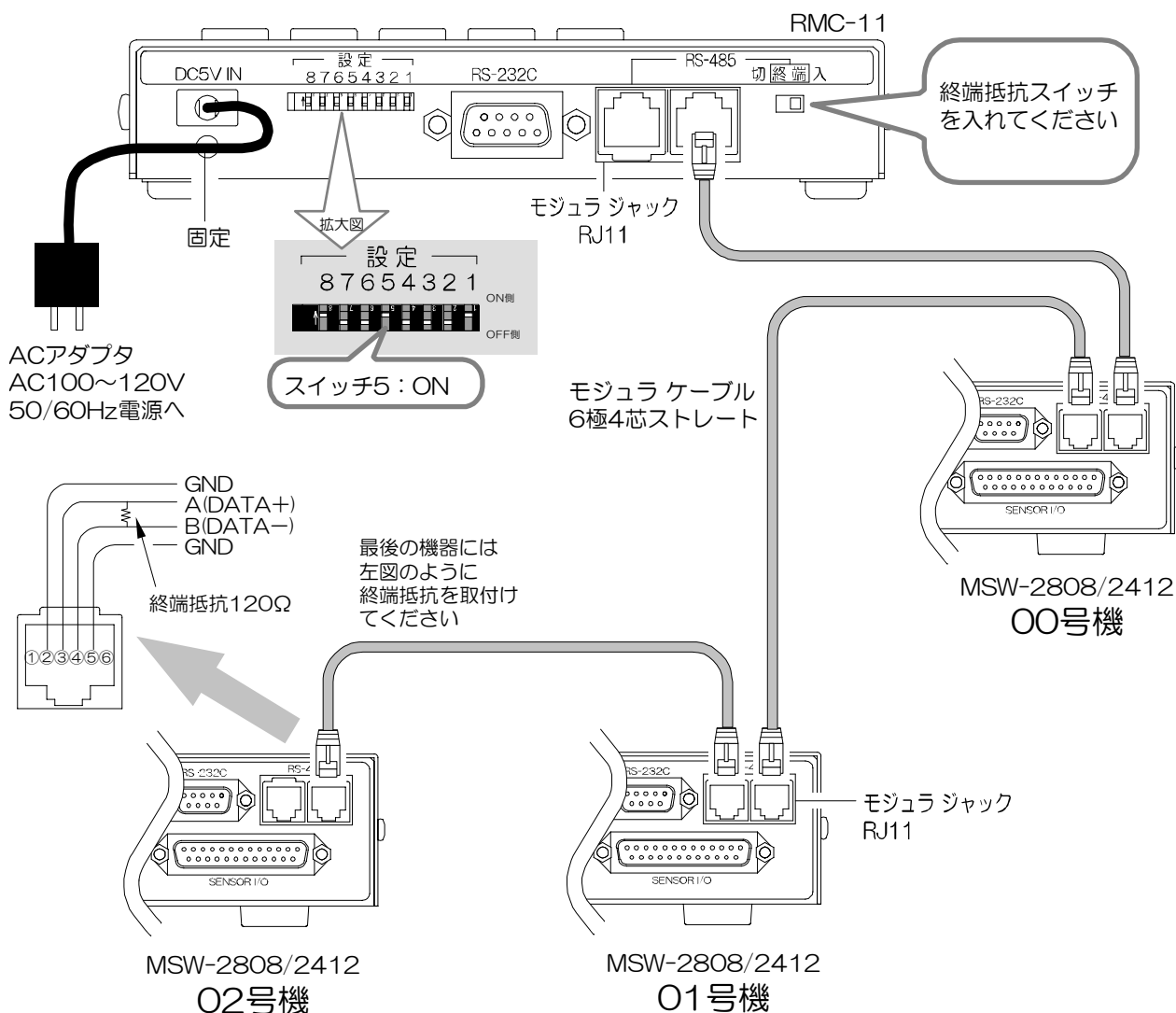


2. 接続例

※各マトリックス スイッチャのメニューでスレーブ アドレス(号機)00~31 を設定してください。

※ディップ スイッチ 5 を ON 側にたおしてください。

※終端抵抗スイッチを入れてください。



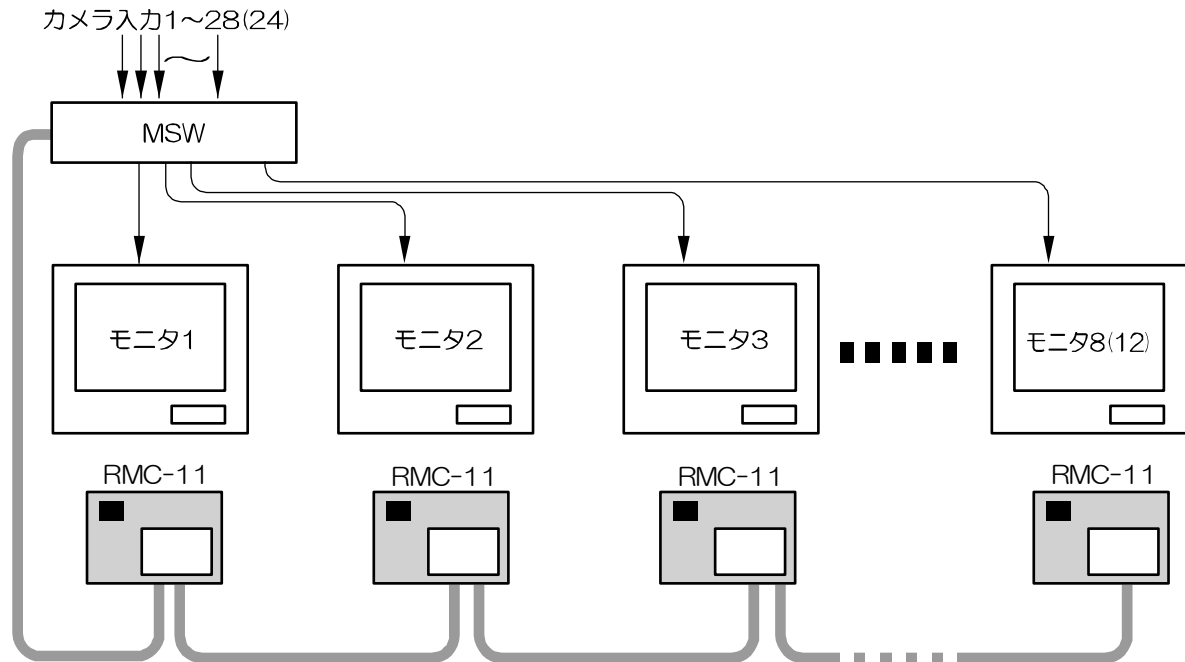
■ RS-485 使用 (RMC を複数接続する場合)

1. システム例

1 台のマトリックス スイッチャに対して複数の人(リモコン)が操作する場合です。

※RMC-11 は RS-485 カスケード接続により最大 32 台まで接続・制御可能です。

※モジュラ ケーブルは最長 1.2km まで接続・制御可能です。



2. 接続例

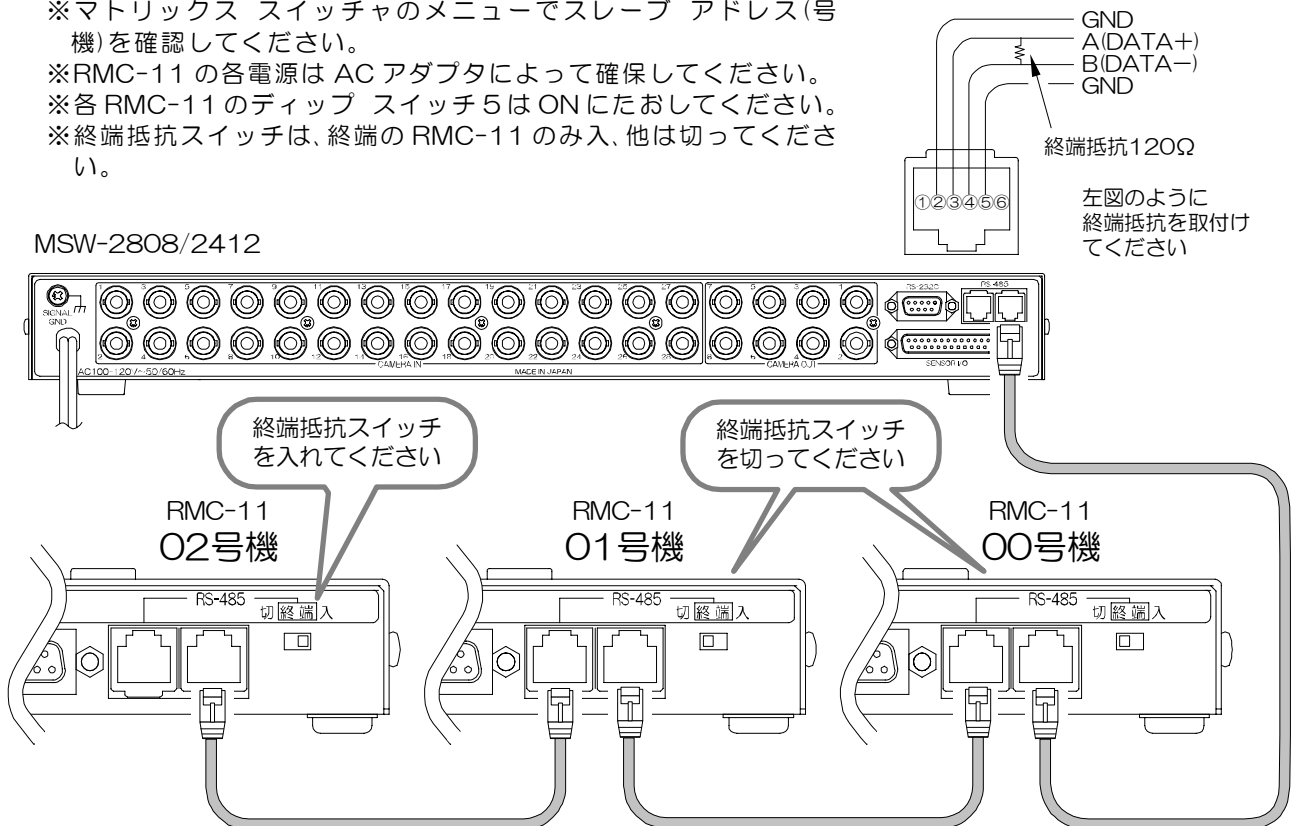
※マトリックス スイッチャのメニューでスレーブ アドレス(号機)を確認してください。

※RMC-11 の各電源は AC アダプタによって確保してください。

※各 RMC-11 のディップ スイッチ 5 は ON にたおしてください。

※終端抵抗スイッチは、終端の RMC-11 のみ入、他は切ってください。

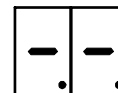
MSW-2808/2412



■ 電源 入/切

付属の AC アダプタをコンセントへ差し込むと LED が右図のように点灯して電源が入ります。

また、AC アダプタをコンセントから引抜くと電源が切られます。



● 工場出荷時設定に戻すには…

送信キーを押しながら電源を入れてください。

LED が右図のように点灯して、次の項目が工場出荷時設定に戻ります。

・スレーブ番号:00

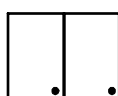
・出力番号:00



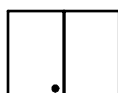
■ 操作方法

※制御する各マトリックス スイッチは各メニューでスレーブ アドレス(00~31)を設定しておいてください。

※点灯する LED のドットで入力内容が判ります。



ドット 2 個表示…スレーブ(号機)番号の入力



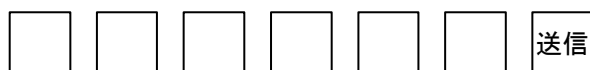
ドット 1 個表示…出力(モニタ)番号の入力



ドット表示なし…入力(カメラ)番号の入力

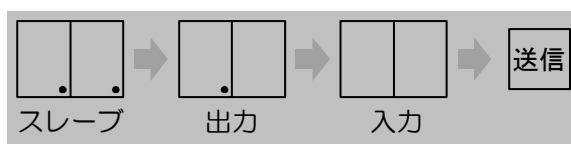
● 6 キー操作(基本操作)

スレーブ(号機)番号,出力(モニタ)番号,入力(カメラ)番号の順に押して、送信キーを押します。

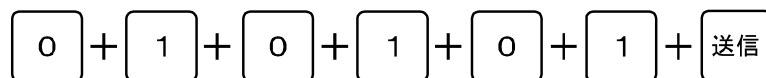


6キー + 送信

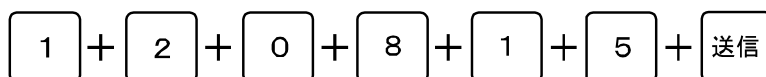
LED の表示



(例)



……01号機の出力1に入力1を割り当てる



……12号機の出力8に入力15を割り当てる



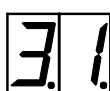
……31号機の出力1を入力1~24(28)の自動切換え(オート シーケンス)表示とする

スレーブ

出力

入力

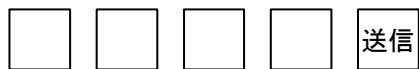
LED表示例



※入力番号に“70”を割り当てると、自動切換え(オート シーケンス)表示となります。

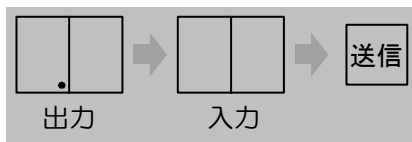
● 4 キー操作(スレーブ固定)

スレーブ番号は固定し、出力(モニタ)番号、入力(カメラ)番号の順に押して、送信キーを押します。
特定の号機のマトリックス スイッチャを制御したい場合に便利です。



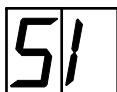
4キー + 送信

LED の表示



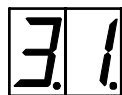
スレーブ番号を固定する方法

- ①ディップ スイッチ 1 が OFF の状態で RMC-11 の電源を立上げます。
- ②ディップ スイッチ 1 を ON 側にたおします。
(右図)
このとき LED は下図のように表示されます。



- ③スレーブ番号と送信キーを押してください。

(例) 3 + 1 + 送信 ……スレーブ 31 を固定とする場合



1のスイッチをON側に
たおしてください

- ④RMC-11 の電源をいったん切って再度入れます。

以上の操作でスレーブ番号が固定されます。
下図の(例)を参考に操作をおこなってください。

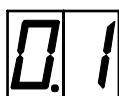
(例)

0 + 1 + 0 + 1 + 送信 ……31号機の出力1に入力1を割り当てる

0 + 8 + 1 + 5 + 送信 ……31号機の出力8に入力15を割り当てる

0 + 1 + 7 + 0 + 送信 ……31号機の出力1を入力1~24(28)の
自動切換え(オート シーケンス)表示とする

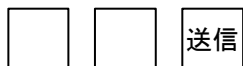
LED表示例



※入力番号に“70”を割り当てると、
自動切換え(オート シーケンス)表示
となります。

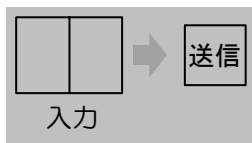
● 2 キー操作 (スレーブ 固定, 出力 固定)

スレーブ 番号と出力 (モニタ) 番号は 固定 し, 入力 (カメラ) 番号と送信 キーを押します。



2 キー + 送信

LED の表示



スレーブ 番号と出力 番号を 固定 する方法

① まず前 ページ の方法 でスレーブ 番号の 固定 の設定 をおこな ってください。

② ディップ スイッチ 2 が OFF の状態 で RMC-11 の電源 を立 上げ ます。

③ ディップ スイッチ 2 を ON 側 にたお します。
(右 図)

このとき LED は下 図のよう に表示 され ます。



④ 出力 番号と送信 キーを押 して ください。

(例) 0 + 4 + 送信 …… 出力 4 を 固定 とする 場合



④ RMC-11 の電源 をい っ た ん 切 っ て 再 度 入 れ ます。

以上 の操作 で出力 番号 が 固定 され ます。

下 図 の (例) を 参考 に 操作 をおこな ってください。

(例)

0 + 1 + 送信 …… 出力 4 に 入力 1 を 割り 当てる

1 + 5 + 送信 …… 出力 4 に 入力 15 を 割り 当てる

7 + 0 + 送信 …… 出力 4 を 入力 1 ~ 24 (28) の
自動 切 換 え (オート シーケンス) 表示 とする



LED 表示 例



※ 入力 番号 に “70” を 割り 当てる と、
自動 切 換 え (オート シーケンス) 表示 となり ます。



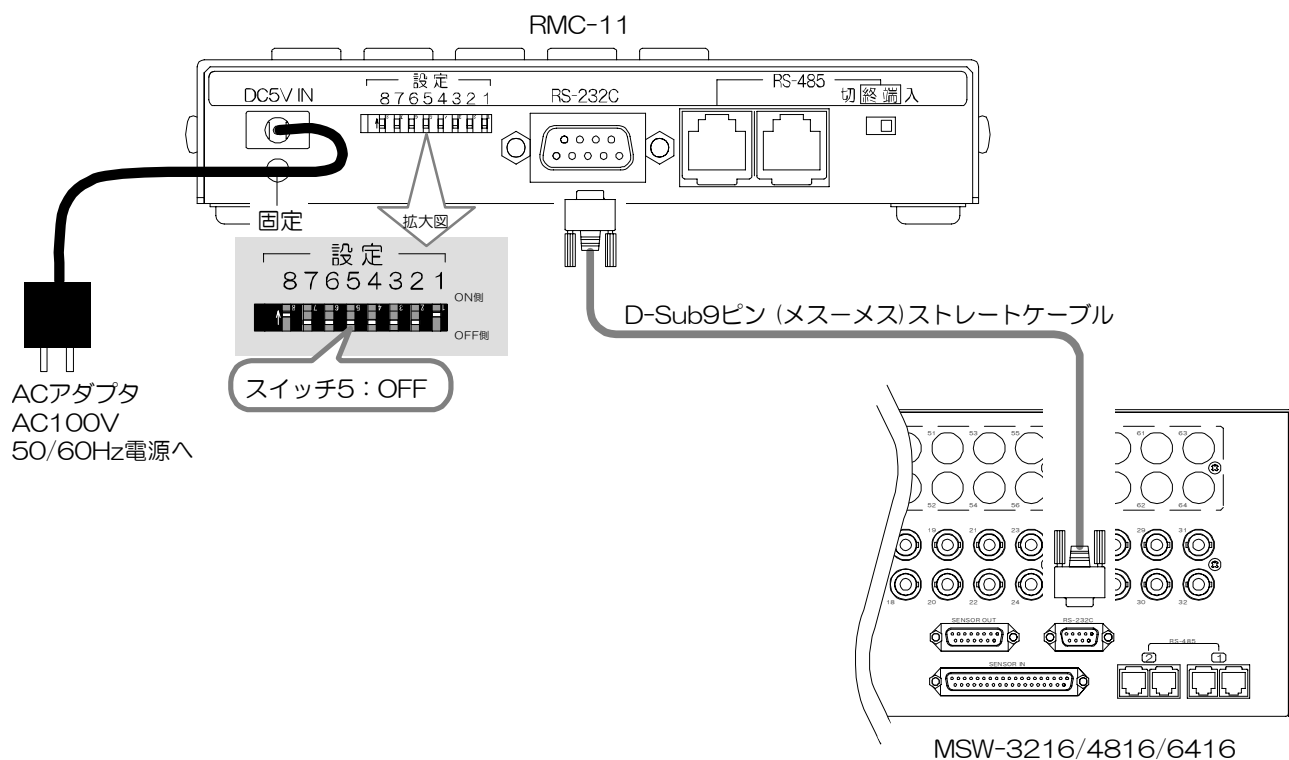
2 のスイッチ を ON 側 に
たお して ください

■ RS-232C 使用

接続例

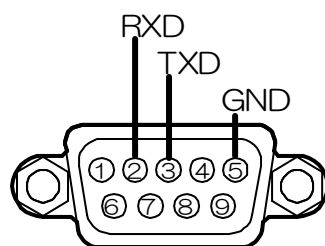
1 台のマトリックス スイッチャと 1 台のリモコンを接続して操作する場合です。

※ディップ スイッチ 5 を OFF 側にたおしてください。



RS-232C ピン アサイン(参考)

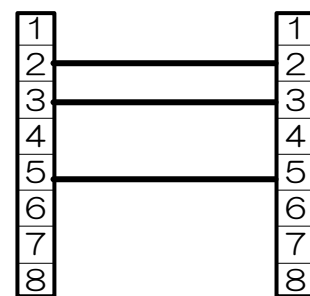
本機の RS-232C は三線式 (RXD, TXD, GND) で、フロー制御をしていません。



D-Sub9ピン(オス)

コントローラー側

機器側



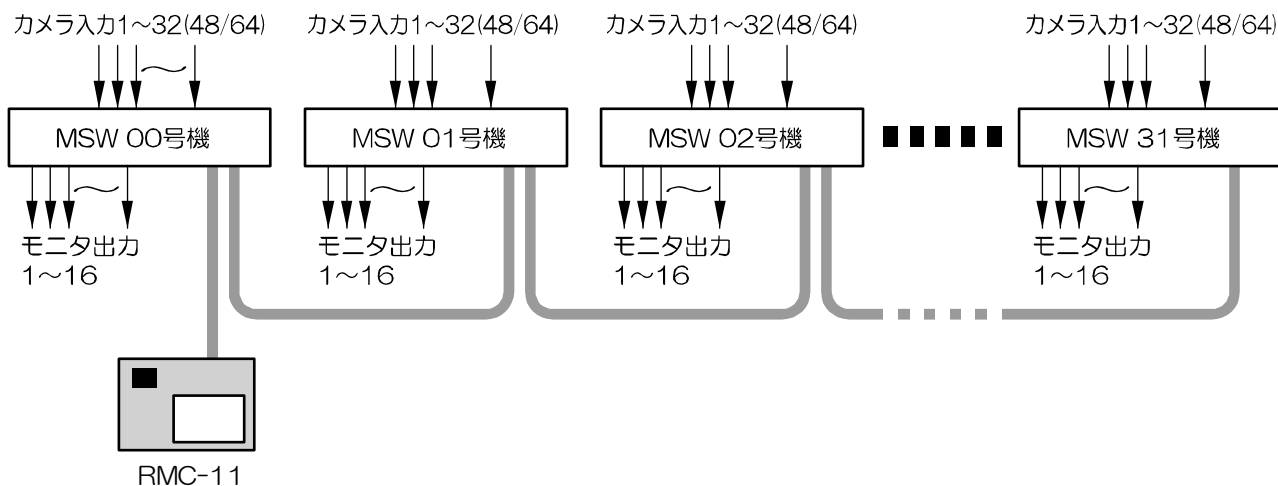
■RS-485 使用 (MSW を複数接続する場合)

1. システム例

多数のカメラ入力とモニタ出力を 1 台のリモコンで操作する場合です。

※マトリックス スイッチャは RS-485 カスケード接続により最大 32 台まで接続・制御可能です。

※モジュラ ケーブルは最長 1.2km まで接続・制御可能です。

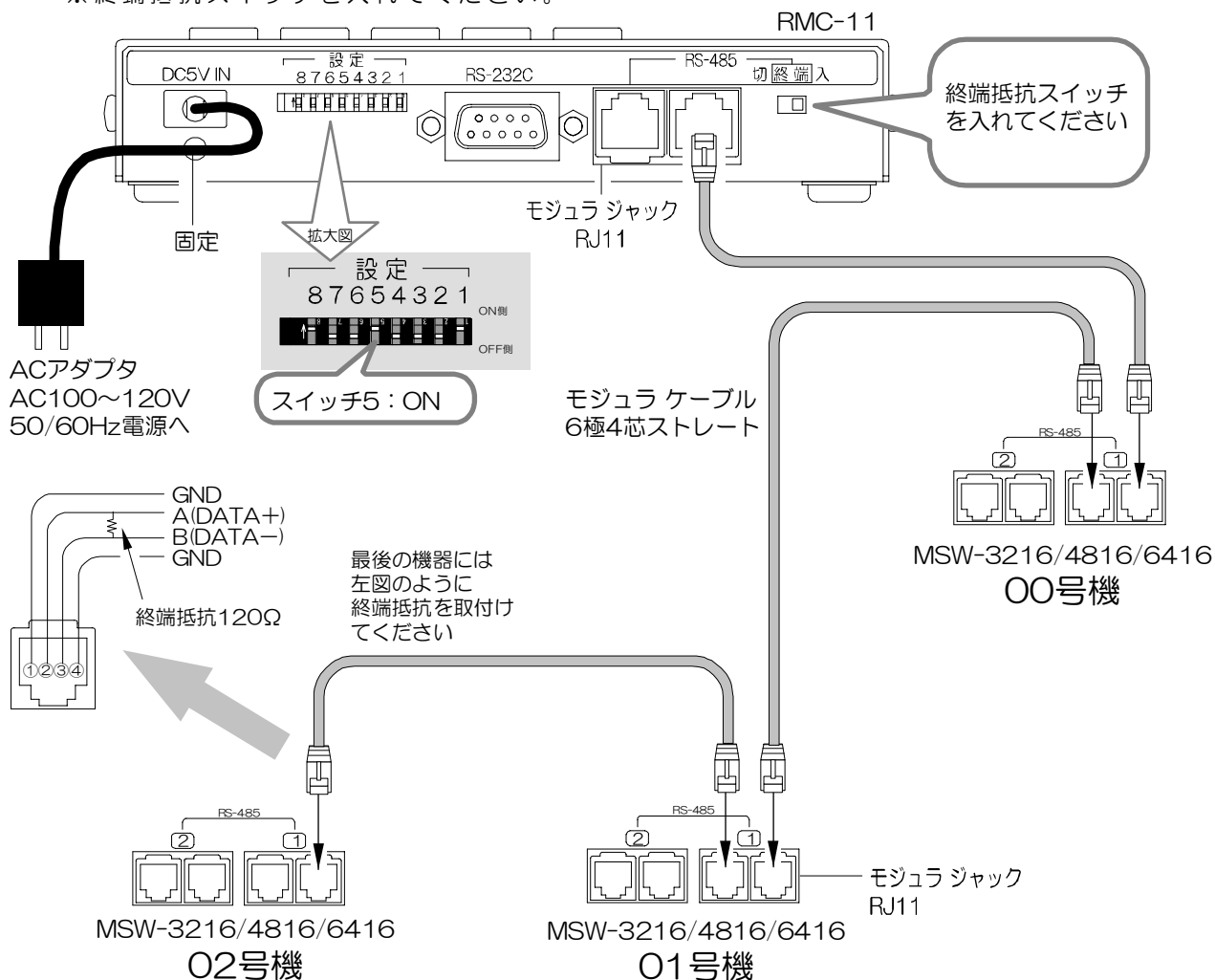


2. 接続例

※各マトリックス スイッチャのメニューでスレーブ アドレス(号機)00~31 を設定してください。

※ディップ スイッチ 5 を ON 側にたおしてください。

※終端抵抗スイッチを入れてください。



■RS-485 使用(RMC を複数接続する場合)

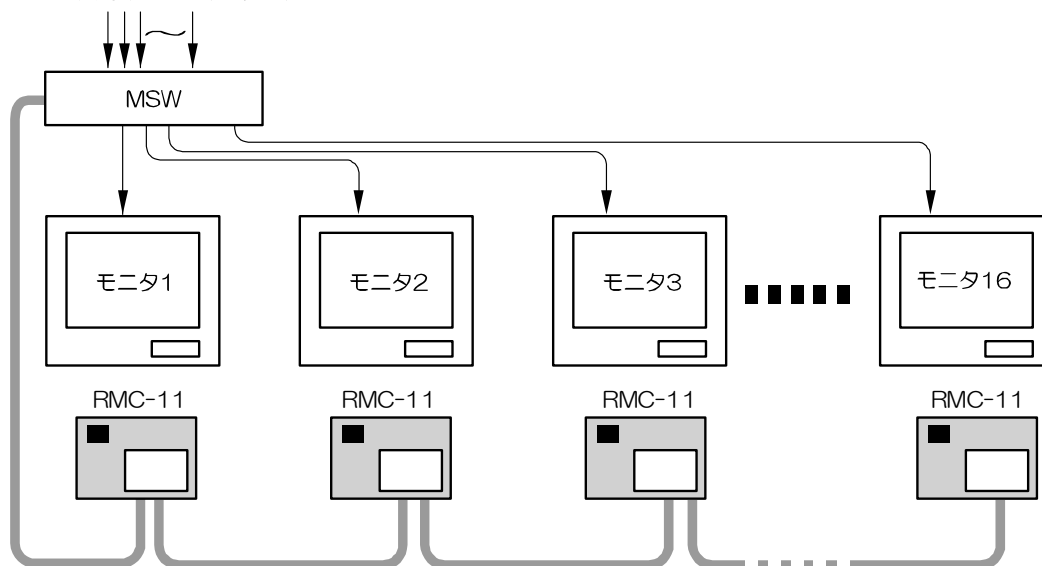
1. システム例

1 台のマトリックス スイッチャに対して複数の人(リモコン)が操作する場合です。

※RMC-11 は RS-485 カスケード接続により最大 32 台まで接続・制御可能です。

※モジュラ ケーブルは最長 1.2km まで接続・制御可能です。

カメラ入力1~32(48/64)



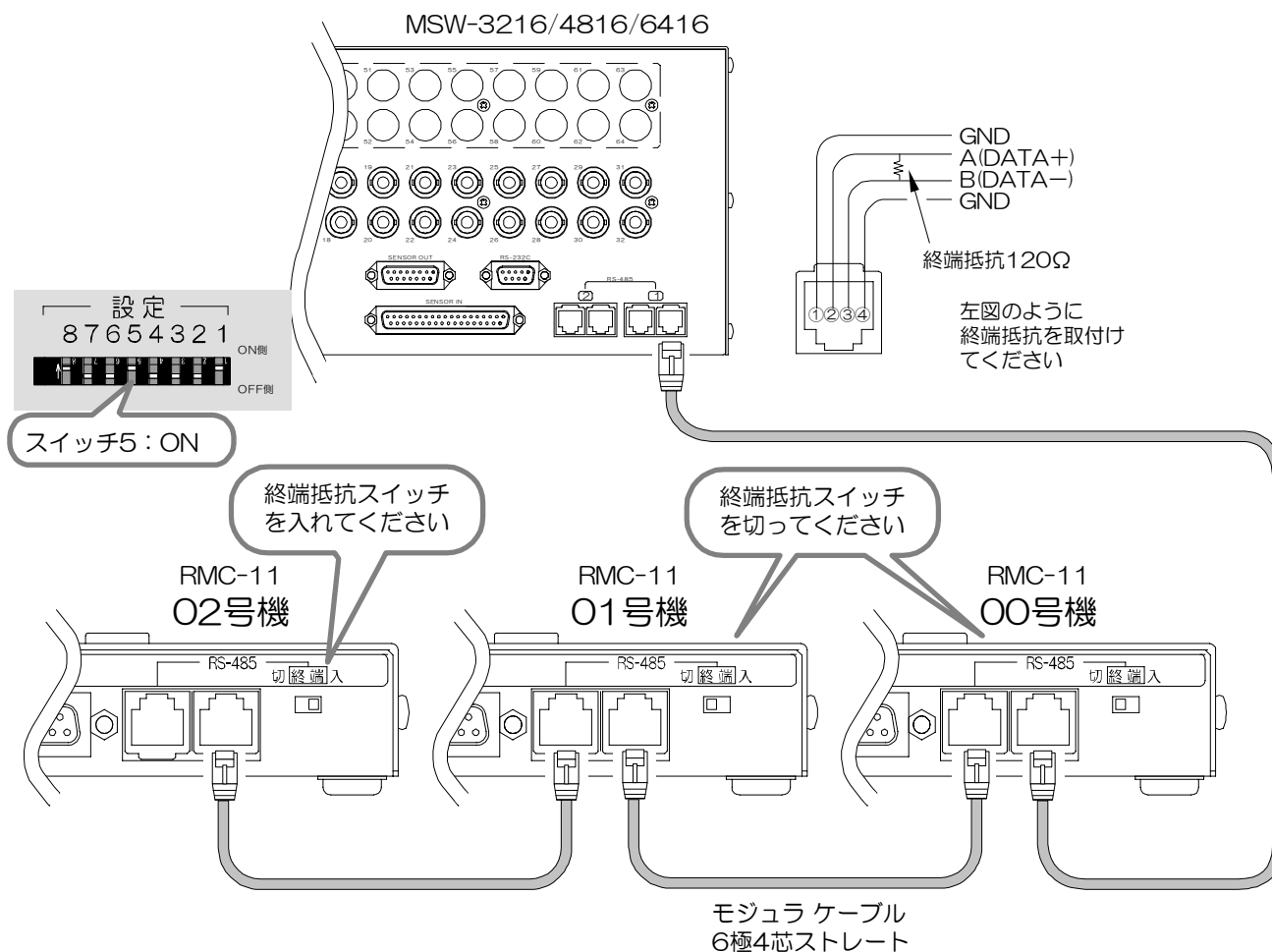
2. 接続例

※マトリックス スイッチャのメニューでスレーブ アドレス(号機)を確認してください。

※RMC-11 の各電源は AC アダプタによって確保してください。

※各 RMC-11 のディップ スイッチ 5 は ON にたおしてください。

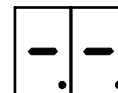
※終端抵抗スイッチは、終端の RMC-11 のみ入、他は切ってください。



■ 電源 入/切

付属の AC アダプタをコンセントへ差し込むと LED が右図のように点灯して電源が入ります。

また、AC アダプタをコンセントから引抜くと電源が切られます。



● 工場出荷時設定に戻すには…

送信キーを押しながら電源を入れてください。

LED が右図のように点灯して、次の項目が工場出荷時設定に戻ります。

・スレーブ番号:00

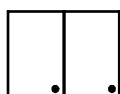
・出力番号:00



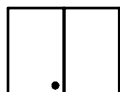
■ 操作方法

※制御する各マトリックス スイッチは各メニューでスレーブ アドレス(00~31)を設定しておいてください。

※点灯する LED のドットで入力内容が判ります。



ドット 2 個表示…スレーブ(号機)番号の入力



ドット 1 個表示…出力(モニタ)番号の入力



ドット表示なし…入力(カメラ)番号の入力

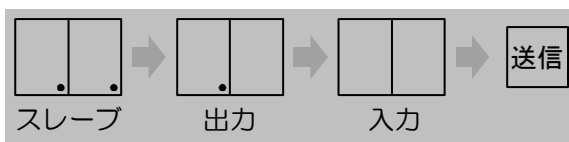
1. 6 キー操作(基本操作)

スレーブ(号機)番号,出力(モニタ)番号,入力(カメラ)番号の順に押して、送信キーを押します。

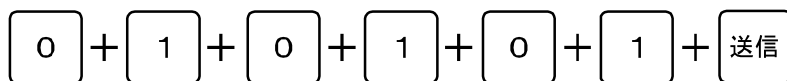


6キー + 送信

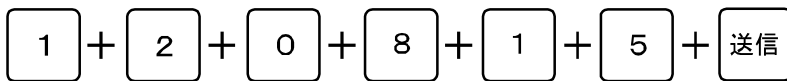
LED の表示



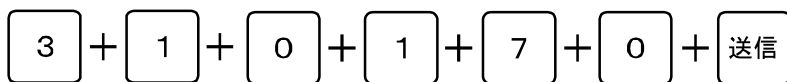
(例)



……01号機の出力1に入力1を割り当てる



……12号機の出力8に入力15を割り当てる



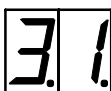
……31号機の出力1を
入力1~32(48/64)の
自動切換え(オート シーケンス)
表示とする

スレーブ

出力

入力

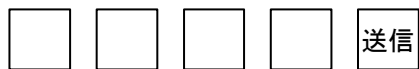
LED表示例



※入力番号に“70”を割り当てると、
自動切換え(オート シーケンス)表
示となります。

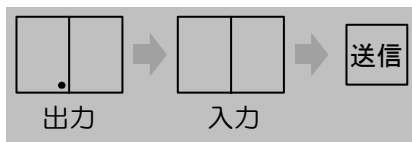
2. 4 キー操作 (スレーブ固定)

スレーブ番号は固定し、出力(モニタ)番号、入力(カメラ)番号の順に押して、送信キーを押します。
特定の号機のマトリックス スイッチャを制御したい場合に便利です。



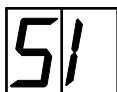
4キー + 送信

LED の表示



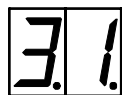
スレーブ番号を固定する方法

- ①ディップ スイッチ 1 が OFF の状態で RMC-11 の電源を立上げます。
- ②ディップ スイッチ 1 を ON 側にたおします。
(右図)
このとき LED は下図のように表示されます。



- ③スレーブ番号と送信キーを押してください。

(例) 3 + 1 + 送信 ……スレーブ 31 を固定とする場合



1のスイッチをON側に
たおしてください

- ④RMC-11 の電源をいったん切って再度入れます。

以上の操作でスレーブ番号が固定されます。
下図の(例)を参考に操作をおこなってください。

(例)

0 + 1 + 0 + 1 + 送信 ……出力1に入力1を割り当てる

0 + 8 + 1 + 5 + 送信 ……出力8に入力15を割り当てる

0 + 1 + 7 + 0 + 送信 ……出力1を入力1～32(64)の
自動切換え(オート シーケンス)
表示とする

出力

入力

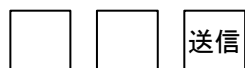
LED表示例



※入力番号に“70”を割り当てると、
自動切換え(オート シーケンス)表
示となります。

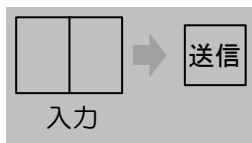
3. 2 キー操作 (スレーブ固定, 出力固定)

スレーブ番号と出力 (モニタ) 番号は固定し, 入力 (カメラ) 番号と送信キーを押します。



2キー + 送信

LED の表示



スレーブ番号と出力番号を固定する方法

① まず前ページの方法でスレーブ番号の固定の設定をおこなってください。

② ディップ スイッチ 2 が OFF の状態で RMC-11 の電源を立上げます。

③ ディップ スイッチ 2 を ON 側にたおします。
(右図)

このとき LED は下図のように表示されます。



④ 出力番号と送信キーを押してください。

(例) 0 + 4 + 送信 ……出力 4 を固定とする場合



2のスイッチをON側に
たおしてください

④ RMC-11 の電源をいったん切って再度入れます。

以上の操作で出力番号が固定されます。

下図の (例) を参考に操作をおこなってください。

(例)

0 + 1 + 送信 ……出力 4 に入力 1 を割り当てる

1 + 5 + 送信 ……出力 4 に入力 15 を割り当てる

7 + 0 + 送信 ……出力 4 を入力 1～32 (48/64) の
自動切換え (オート シーケンス)
表示とする

入力



LED表示例

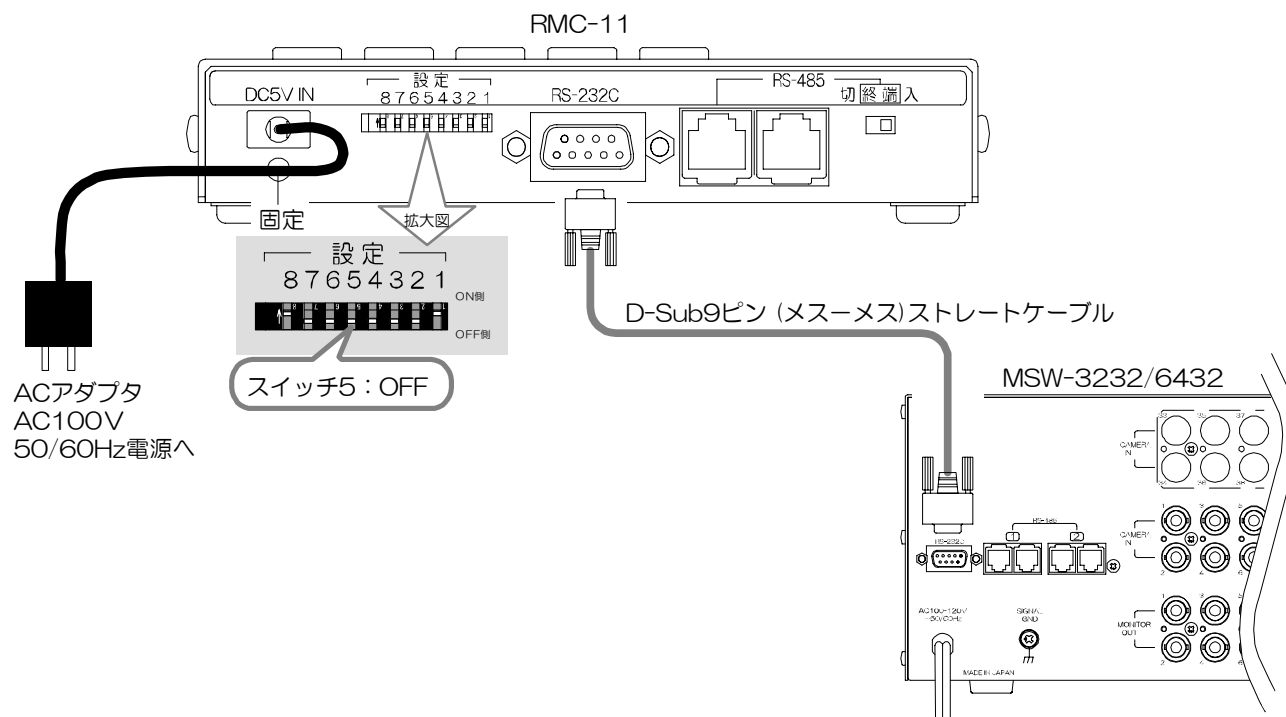
※入力番号に“70”を割り当てると、
自動切換え (オート シーケンス) 表
示となります。

■ RS-232C 使用

接続例

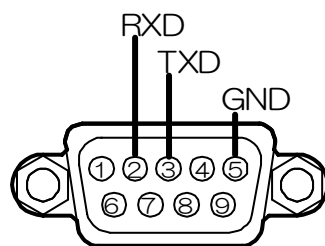
1 台のマトリックス スイッチャと 1 台のリモコンを接続して操作する場合です。

※ディップ スイッチ 5 を OFF 側にたおしてください。



RS-232C ピン アサイン(参考)

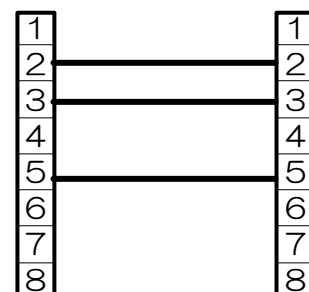
本機の RS-232C は三線式 (RXD, TXD, GND) で、フロー制御をしていません。



D-Sub9ピン(オス)

コントローラー側

機器側



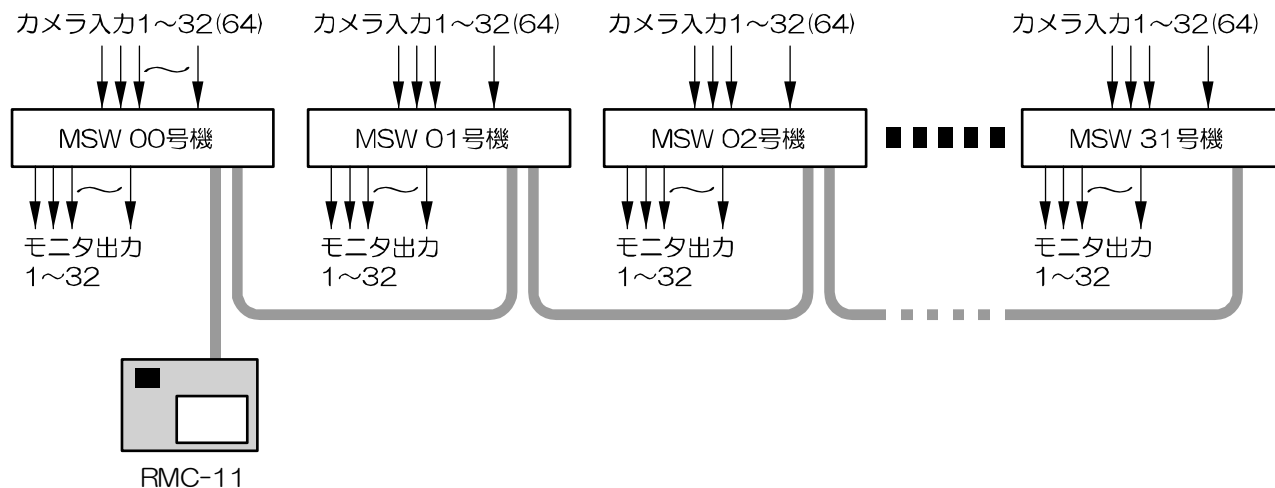
■ RS-485 使用 (MSW を複数接続する場合)

1. システム例

多数のカメラ入力とモニタ出力を 1 台のリモコンで操作する場合です。

※マトリックス スイッチャは RS-485 カスケード接続により最大 32 台まで接続・制御可能です。

※モジュラ ケーブルは最長 1.2km まで接続・制御可能です。

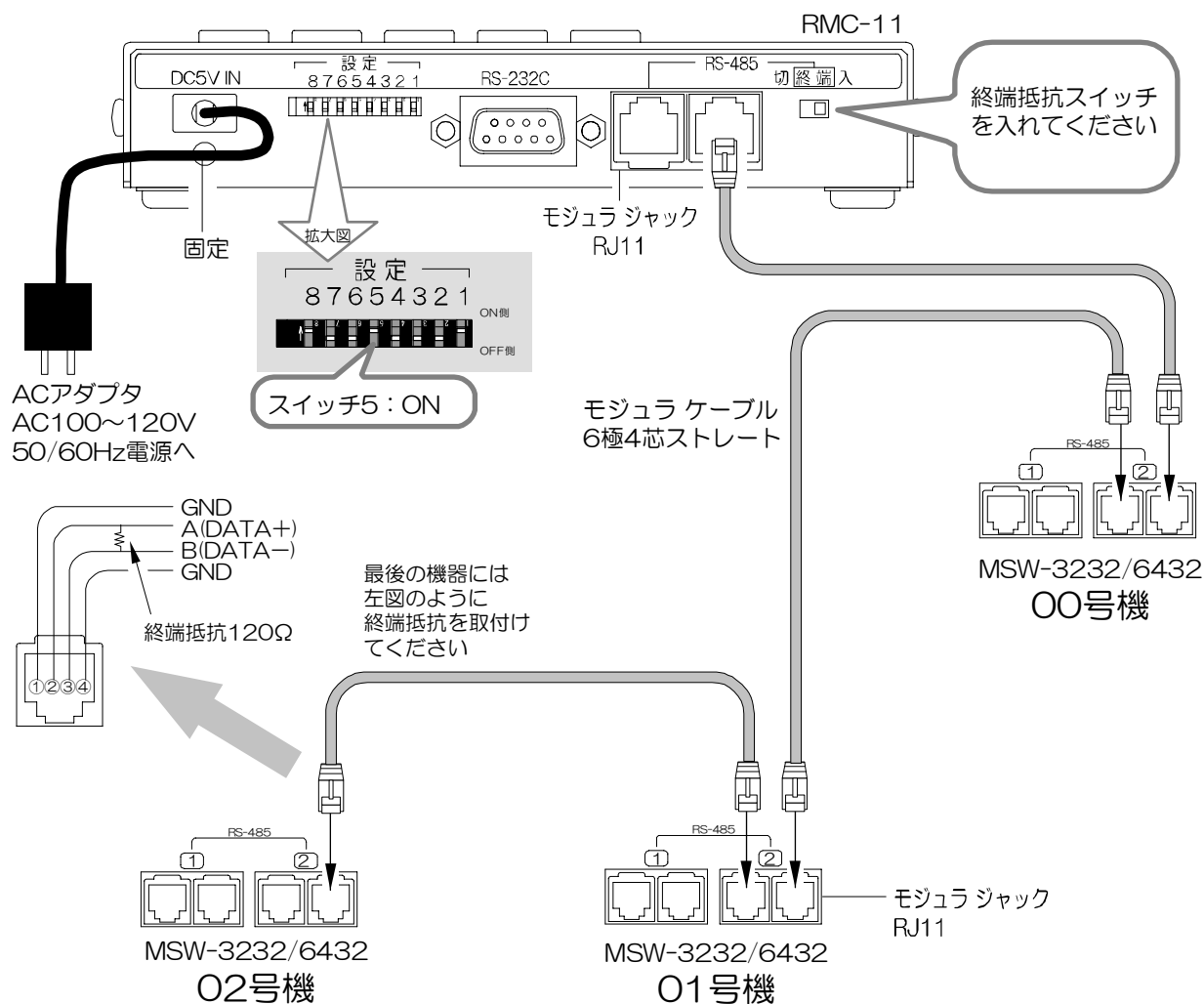


2. 接続例

※各マトリックス スイッチャのメニューでスレーブ アドレス(号機)00~31 を設定してください。

※ディップ スイッチ 5 を ON 側にたおしてください。

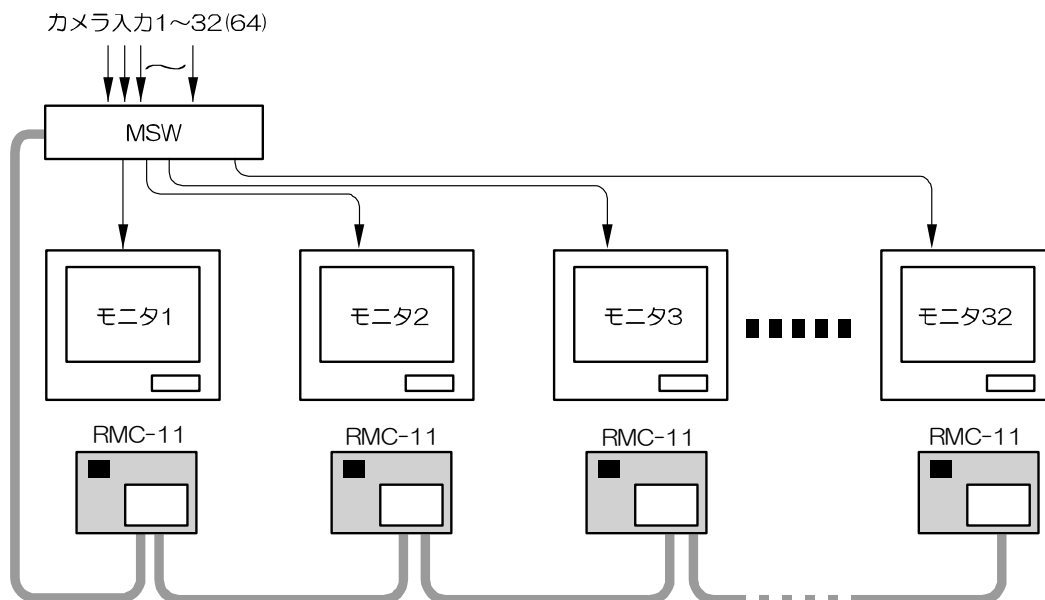
※終端抵抗スイッチを入れてください。



■ RS-485 使用 (RMC を複数接続する場合)

1. システム例

1 台のマトリックス スイッチャに対して複数の人 (リモコン) が操作する場合です。
 ※RMC-11 は RS-485 カスケード接続により最大 32 台まで接続・制御可能です。
 ※モジュラ ケーブルは最長 1.2km まで接続・制御可能です。



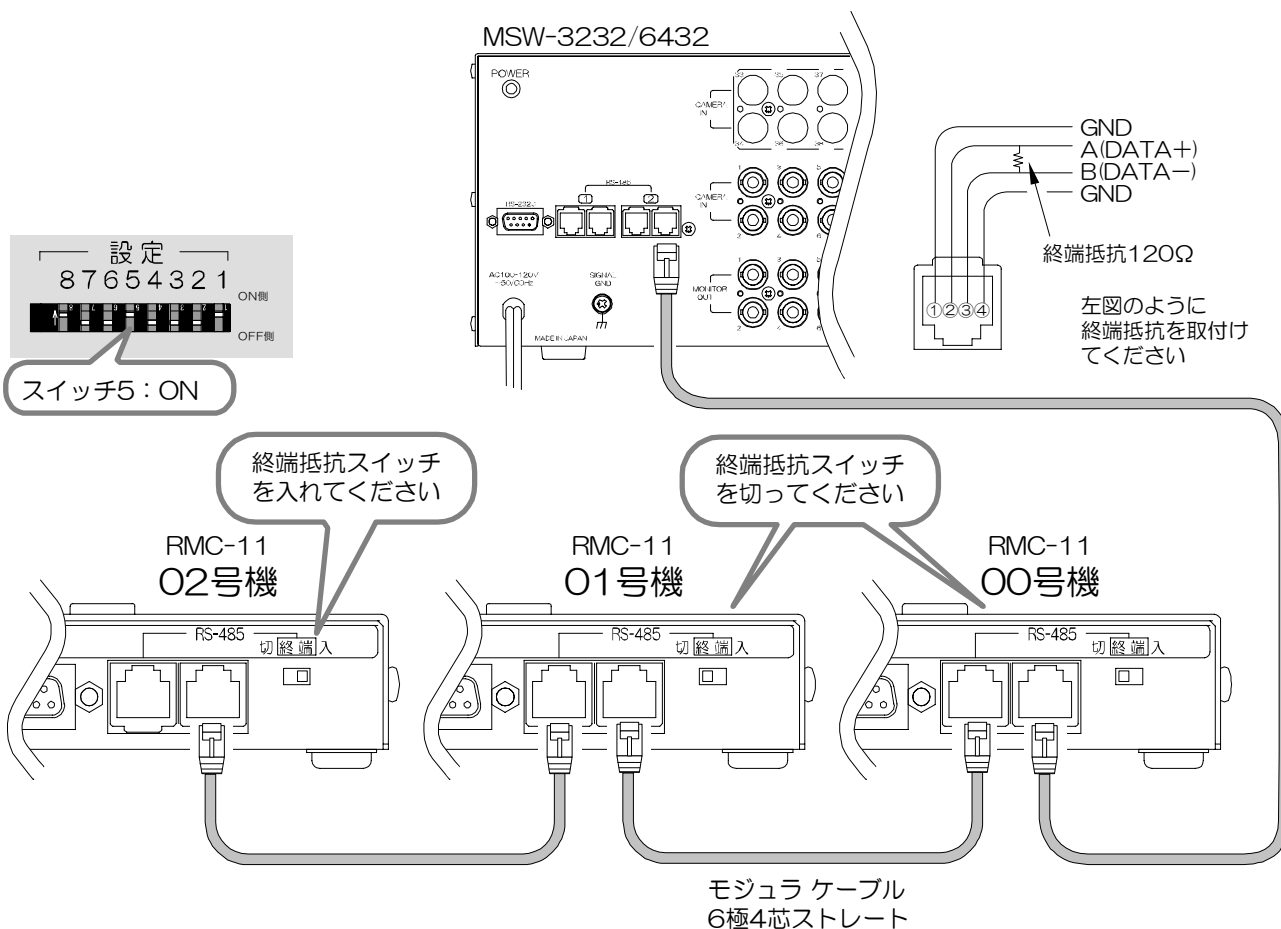
2. 接続例

※マトリックス スイッチャのメニューでスレーブ アドレス (号機) を確認してください。

※RMC-11 の各電源は AC アダプタによって確保してください。

※各 RMC-11 のディップ スイッチ 5 は ON にたおしてください。

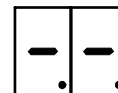
※終端抵抗スイッチは、終端の RMC-11 のみ入、他は切ってください。



■ 電源 入/切

付属の AC アダプタをコンセントへ差し込むと LED が右図のように点灯して電源が入ります。

また、AC アダプタをコンセントから引抜くと電源が切られます。



● 工場出荷時設定に戻すには…

送信キーを押しながら電源を入れてください。

LED が右図のように点灯して、次の項目が工場出荷時設定に戻ります。

・スレーブ番号:00

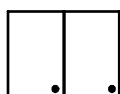
・出力番号:00



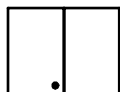
■ 操作方法

※制御する各マトリックス スイッチは各メニューでスレーブ アドレス(00~31)を設定しておいてください。

※点灯する LED のドットで入力内容が判ります。



ドット 2 個表示…スレーブ(号機)番号の入力



ドット 1 個表示…出力(モニタ)番号の入力



ドット表示なし…入力(カメラ)番号の入力

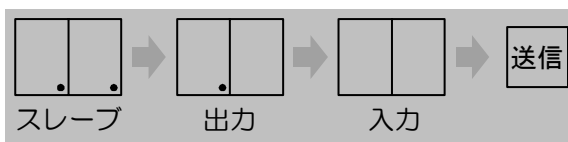
1. 6 キー操作(基本操作)

スレーブ(号機)番号,出力(モニタ)番号,入力(カメラ)番号の順に押して、送信キーを押します。

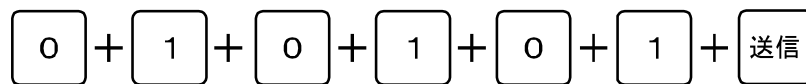


6キー + 送信

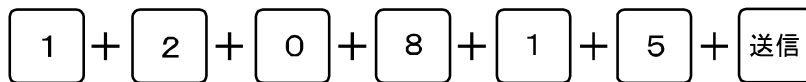
LED の表示



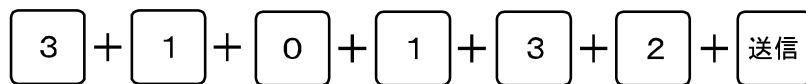
(例)



………01号機の出力1に入力1を割り当てる



………12号機の出力8に入力15を割り当てる



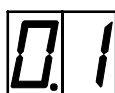
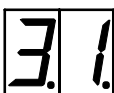
………31号機の出力1に入力32を割り当てる

スレーブ

出力

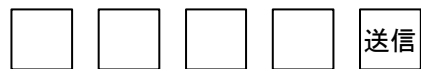
入力

LED表示例



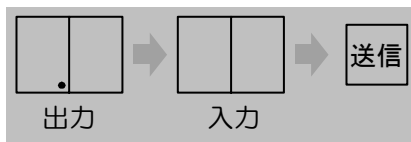
2. 4 キー操作 (スレーブ固定)

スレーブ番号は固定し、出力(モニタ)番号、入力(カメラ)番号の順に押して、送信キーを押します。
特定の号機のマトリックス スイッチャを制御したい場合に便利です。



4キー + 送信

LED の表示



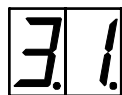
スレーブ番号を固定する方法

- ①ディップ スイッチ 1 が OFF の状態で RMC-11 の電源を立上げます。
- ②ディップ スイッチ 1 を ON 側にたおします。
(右図)
このとき LED は下図のように表示されます。



- ③スレーブ番号と送信キーを押してください。

(例) 3 + 1 + 送信 ……スレーブ 31 を固定とする場合



1のスイッチをON側に
たおしてください

- ④RMC-11 の電源をいったん切って再度入れます。

以上の操作でスレーブ番号が固定されます。
下図の(例)を参考に操作をおこなってください。

(例)

0 + 1 + 0 + 1 + 送信 ……31号機の出力1に入力1を割り当てる

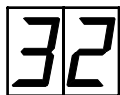
0 + 8 + 1 + 5 + 送信 ……31号機の出力8に入力15を割り当てる

0 + 1 + 3 + 2 + 送信 ……31号機の出力1に入力32を割り当てる

出力

入力

LED表示例



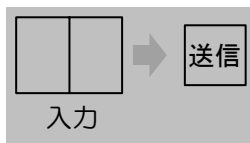
3. 2 キー操作 (スレーブ固定, 出力固定)

スレーブ番号と出力 (モニタ) 番号は固定し, 入力 (カメラ) 番号と送信キーを押します。



2キー + 送信

LED の表示



スレーブ番号と出力番号を固定する方法

① まず前ページの方法でスレーブ番号の固定の設定をおこなってください。

② ディップ スイッチ 2 が OFF の状態で RMC-11 の電源を立上げます。

③ ディップ スイッチ 2 を ON 側にたおします。
(右図)

このとき LED は下図のように表示されます。



④ 出力番号と送信キーを押してください。

(例) 0 + 4 + 送信 ……出力 4 を固定とする場合



2のスイッチをON側に
たおしてください

④ RMC-11 の電源をいったん切って再度入れます。

以上の操作で出力番号が固定されます。

下図の (例) を参考に操作をおこなってください。

(例)

0 + 1 + 送信 ……出力4にを割り当てる

1 + 5 + 送信 ……出力4にを割り当てる

3 + 2 + 送信 ……出力4にを割り当てる



入力

LED表示例



ディップ スイッチの設定について

■操作方法

ディップ スイッチの設定を有効にするために次の手順が必要です。

- ① 設定したいディップ スイッチが OFF の状態で電源を入れる。
- ② 設定したいディップ スイッチを ON 側にたおす。(1 つだけ)
- ③ LED に内容が表示される。
- ④ 設定する。(スレーブ番号,出力番号の設定のみ)
- ⑤ 電源を切り、再度入れる。

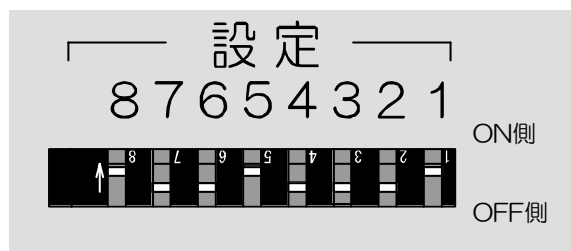
■各スイッチの説明

1.スレーブ番号の設定

スレーブ番号を固定することによって、操作するときスレーブ番号入力を省略できます。

ディップ スイッチ1	設定値
ON	スレーブ番号固定 設定範囲:00~31
OFF	スレーブ番号フリー

工場出荷時設定:ディップ スイッチ 1 は ON
スレーブ番号は 00 で固定



2.出力番号の設定

出力番号を固定することによって、操作するとき出力番号入力を省略できます。

ディップ スイッチ2	設定値
ON	出力番号固定 設定範囲:01~出力数
OFF	出力番号フリー

工場出荷時設定:ディップ スイッチ 2 は OFF

3.使用しません

4.データ レートの設定

ディップ スイッチ4	設定値
ON	2400(bps)
OFF	9600(bps)

工場出荷時設定:ディップ スイッチ 4 は OFF 9600(bps)

5.通信プロトコルの設定

ディップ スイッチ5	設定値
ON	RS-485
OFF	RS-232C

工場出荷時設定:ディップ スイッチ 5 は ON RS-485

6.使用しません

7.使用しません

8.アンサー表示の設定

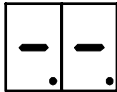
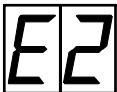
リモコンからの制御コマンドのテスト時に使用します。

ディップ スイッチ8	設定	動作
ON	アンサーあり	制御コマンド送信後にスイッチャの状態を LED 表示します。
OFF	アンサーなし	制御コマンド送信後にスイッチャの状態を LED 表示しません。

工場出荷時設定:ディップ スイッチ 8 は ON アンサーあり

LED の表示内容

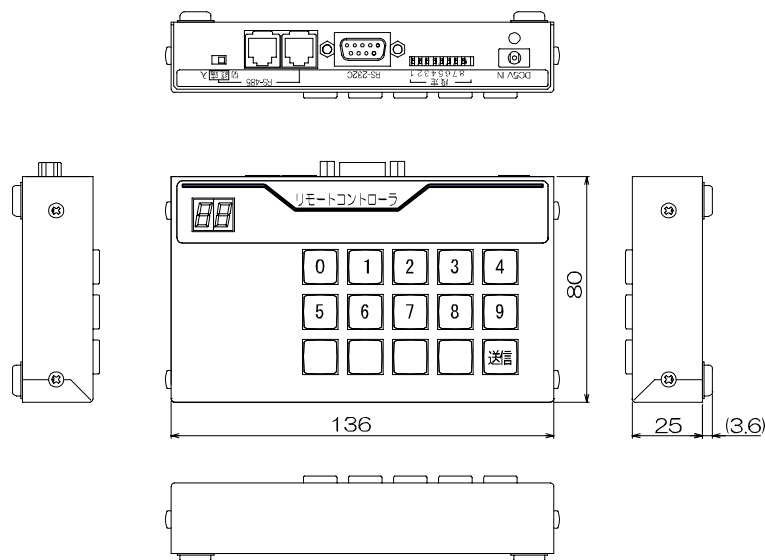
LED に表示される内容を以下に説明します。

LED 表示	状 態	備 考
	電源立上げ時の表示です。	
	制御コマンドは正常に処理されました。	調整モード (ディップ スイッチ 8 が ON) のときのみ表示
	送信エラー。フレーミング エラー。	調整モード (ディップ スイッチ 8 が ON) のときのみ表示
	送信エラー。パリティ エラー。	調整モード (ディップ スイッチ 8 が ON) のときのみ表示
	送信エラー。オーバーラン エラー。	調整モード (ディップ スイッチ 8 が ON) のときのみ表示
	制御コマンド エラー。 コマンドを拒否しました。	調整モード (ディップ スイッチ 8 が ON) のときのみ表示
	スレーブ番号を固定します。	ディップ スイッチ 1 を ON にしたとき表示
	出力番号を固定します。	ディップ スイッチ 2 を ON にしたとき表示
	スレーブ番号と出力番号を工場出荷時設定に戻しました。	スレーブ番号:00 出力番号:00

製品仕様

■通信方式	RS-485(ハーフ デュープレックス)準拠 / RS-232C準拠
■電源	AC100V±10% 50/60Hz (ACアダプタを使用)
■消費電力	約1.2W
■使用温湿度	0~40℃ 10~90%RH(ただし、結露無きこと)
■外形寸法	136(W)×80(D)×25(H)(mm) 外観図#M3040301
■筐体色	アイボリー(日塗工:A22-85B相当) (マンセル:2.5Y8.5/1相当)
■筐体文字色	ダーク グレイ(日塗工:AN-30相当) (マンセル:N3相当)
■質量	約0.3kg
■インターフェース	RS-485 RJ-11コネクタ×2 6極4芯(ACアダプタ使用時) RS-232C D-sub9ピンオス RXD,TXD,COMMON ※ケーブルは付属しておりません。

■外観図



修理を依頼されるときは

- 本機が正常に動作しないときは「接続例」をもう一度ご覧いただき、なお異常のあるときはお買い求めの販売店にご連絡ください。
- 修理をお申し付けいただくときは、次のことをお知らせください。
品名 : リモート コントローラ RMC-11
症状 : 設置状態を含めできるだけ詳細にお知らせください。

品質保証規定

取扱説明書の注意事項に従った使用状態で使用中に発生した故障については、お買い上げの日より1年間、無償にて修理させていただきます。

※保証期間内であっても、下記の場合有償となる場合がございます。

- ① お買い上げの年月日、および販売店について証明となるものをご提示いただけない場合。
- ② ご使用上の誤り、他の機器から受けた障害、または不当な修理や改造による故障および損傷。
- ③ お買い上げ後の移動、輸送、落下などによる故障および損傷。
- ④ 火災、地震、水害、落雷、その他天変地異のほか公害、塩害、異常電圧などが原因となって発生した故障および損傷。
- ⑤ 故障の原因が本機以外にあり本機に改善を要する場合。
- ⑥ 付属品などの消耗品による交換。

おことわり

本製品は、その特徴上犯罪や災害時等の監視のためにご使用されるケースが考えられますが、犯罪や災害の抑制および防止機ではありません。また本製品のご使用方法の誤り、不当な修理や改造のほか、誘導雷サージを含む天災などの被害により発生した事故や、人身事故および災害、盗難事故による損害については責任を負いかねますのでご了承ください。

保証書

品名： RMC-11		本体裏シールのSER. No.（製造番号）をご記入ください	
No.			
お客様名： ご住所 〒 TEL：		取扱販売店名・住所・電話番号 様	
保証期間	お買い上げ日 年 月 日より 1 年間		

Artics
株式会社 アルテックス

住 所 神奈川県相模原市南区麻溝台 8-22-1

営業部ダイヤルイン 042(742)2110

F A X 042(742)3631

E - M A I L info@n-artics.co.jp

U R L <http://www.n-artics.co.jp>